

○村田温子^{*} 泉有亮^{**}

(^{*}三重短大 ^{**}梶山女学園大)

目的 市販布には樹脂加工されているものが多いが、染色する場合には、それがどのように影響するのか、樹脂の効果的な除去方法は何か、また染色性はどうなるのかについて検討した。

方法 サンフォライズ加工、SS加工、SSP加工されたN社の綿100%40番ブロードを用い、JIS L 1041 樹脂加工織物及び編物の試験方法「樹脂量」を参考に0.25%塩酸及びその塩酸とpHをほぼ同じにした硫酸、酢酸で90℃30分処理した。比較のために熱水で30分処理したもの及び原布を試料として用いた。酸処理した試料の溶出ホルムアルデヒド量を測定し、TENSIRON ON/UTM-111で引張り強伸度曲線を描き、ヤング率、強度、伸長率を算出した。またそれぞれの試料を1% o.w.f.の直接染料で15分、30分間染色し、視感反射率をINFRARED MOISTURE DETERMINATION BALANCE FD-230で測定した。

結果 酸処理後の溶出ホルムアルデヒドは、サンフォライズ加工布では検出できず、SS,SSP加工布では塩酸、硫酸ともに5.2～5.5 mg/g^{*}、酢酸はその約1/2が検出された。染色性は、ホルムアルデヒド溶出と同様、溶出量が多い試料ほど悪かった。酸処理後の引っ張り強度については概して低下したが、中でも塩酸が大きかった。